入門期における音読の基礎指導

―― 聞き分ける力を育てながら ――

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由…… 23

Ⅱ　研究仮説…… 23

Ⅲ　研究内容…… 23

1　聞き分ける力と音読との関連…… 23

2　入門期における音読指導のあり方…… 24

3　入門期における音読学習の教材化について…… 24

4　現行学習指導要領における音読・朗読に関する指導事項の系統…… 25

5　入門期の学習内容と単元構成…… 26

Ⅳ　授業実態…… 26

1　単元名…… 26

2　単元の目標…… 26

3　単元の設定理由…… 26

4　指導計画…… 27

5　指導案…… 29

6　本時の評価…… 35

7　授業記録…… 35

8　授業研究会の記録…… 38

Ⅴ　資料…… 38

Ⅵ　研究のまとめと今後の課題…… 42

おわりに…… 42

参考文献…… 42

浦添市立港川小学校教諭

木　村　まち子

入門期における音読の基礎指導

―― 聞き分ける力を育てながら――

浦添市立港川小学校教諭　木　村　まち子

Ⅰ　テーマ設定の理由

入門期の一年生の音読学習のスタートは，まず，文字を正しく読むことから始まる。ひらがなを習得し音声の記号として扱えるようになって，はじめて，ことばとして読めるようになる。音韻通りに正しく発音できること，語として文として正確に音声化できることが，読む力の基礎となる。さらに，声に出して読んでみることで，ことばの感覚を磨き，語彙を豊かにし，表現力を高めていく。

ところが，入学したばかりの一年生の発音・発声は，声量に乏しく唇や舌の動きも不十分なためたどたどしくてはっきりしないことが多い。また，文字の読み違いやとばし読みなど，文に沿って読むことが難しい。個人差はあるが，一つ一つ拾い読みをしている段階の子がほとんどである。

このような状況の中で，一年生に音読学習の基礎を身につけさせるには，入門期において系統的なきめ細かい指導が必要である。

しかし，自分の今までの指導を振り返ってみると，果たして十分な指導をしてきたかどうか疑問である。つい，ひらがなを書かせる活動に時間を取られたり，内容把握に偏ったりして，声を出して読む活動は，単なる一斉読みで終わってしまっていたような気がする。これでは，音読の基礎は身につかない。

そこで，入門期に音読の基礎を効果的に指導する方法について考えてみたい。しっかり音読できる子を育てるには，しっかり聞かすことが基本になると思う。聞き分ける耳が育っていなければ，正しい音読も身につかないであろう。「しっかり聞く」とはどういうことなのか。「はっきり話す」とはどういうことなのか，より具体的に聴覚に訴えながら感じとらせていきたい。

これまで自分がやってきた指導の反省点を踏まえ，聞き分ける力を育てながら音読の基礎を身につけていく指導法を探って行きたいと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説

1　音や声，ことばを聞き合う授業を通して，音読の基礎的技能（口形，姿勢，声量）を伸ばすことができるであろう。

2　みんなと一緒に楽しく読んだり暗唱したりできる歌や詩，ことば遊びを取り入れることにより，語や文としてのまとまりを考えて音読する子が育つであろう。

Ⅲ　研究内容

1　聞き分ける力と音読との関連

人は，音を聞く方が物を見るより先に，ことばを聞くことの方が話すことよりも先に育つ。そのことが「ことばの習得は聞くことから始まるのであって，ことばの指導の基本は聞くこと

である」と言われる所以である。いかに聞き分ける力をつけるかが，音読学習にとっても大きな意味を持つ。聞き分ける力をつける意義を次のような三つの面から考えてみた。

(1) 音（おと）を聞き分ける力

聴く耳を育てるには，小さい時から音を大切にし静かな環境の中でいろいろな音を聞かせることが大切である。また，「音あてゲーム」などで，身の回りの音に気付かせたり，音の大小・強弱・高低・リズムなどを遊びの中で楽しく聞き分けさせていく。音を聞き分ける力は，音声やことばの聞き分けにつながる。

(2) 音声を聞き分ける力

日本語の発音の基礎は，聴覚や発音器官に異常がない限り，正しく音を聞き分けられれば自然に身についていくものと考えられる。しかし，音声の聞き分けが曖昧だと発音も歪んでしまう。正しい音声を聞かせることが正しい発音を育て，音声を正しく聞き分ける力が音読の技能を高める。

(3) ことばを聞き分ける力

豊かな言語環境の下では，音声の聞き分けができるようになると，語としての感覚や意識をもってことばを聞き分けることができるようになる。さらに，聞いたことばを音声化することによってイメージを豊かなものにしていく。ことばを聞き分ける力は，語感を育て表現を豊かなものにする。音読技能の向上のためにも，ことばとしてのイメージをもった聞き分けが大切である。

2　入門期における音読指導のあり方

小学校に入学したばかりの児童は，自然習得で日本語の話し方を一応身につけている。しかし，その個人差は大きく，みんなが声を出す楽しさを感じているとはいえない。そこで，音読指導の最初は声づくりから始める必要がある。子どもは，遊ぶ時，笑う時，自然で張りのある元気な声が出るものである。それを授業でも生かし，まず，外遊びの中で元気な声を育てていく。

また，国語という一つ教科の枠にとらわれずに学校生活のあらゆる場面を利用し，みんなの前でたくさん声を出させるようにしたい。（朝の会，帰りの会，一日のあいさつ，返事など）

また，国語以外の授業の中にも声づくりをする素材はいっぱいある。特に，体育や音楽は，音読に必要な声を育てる。リズムに乗って楽しく歌い，踊りながら，体を通して自然に口形や姿勢・発音などが身についていくように心配りをしていきたい。

3　入門期における音読学習の教材化について

教科書（教育出版）によると，入門期は４月から６月末まで，ひらがな全部の読み書きに慣れ自分の力で簡単な文章を読み，自分のしたことを簡単な文に書き表すことができるまでの期間と捉えられている。七つの単元で構成され，文字，言葉の基礎的要素を無理のないように一単元に一つずつ配置してある。また，この時期の教材は，声に出して読む楽しさが大事な条件の一つとなっており，リズムに乗って楽しく口ずさめるように配慮されている。

しかし，入門期における音読学習の重要性を考えると，さらに一歩進んだ工夫が必要と思われる。

4　現行学習指導要領における音読・朗読に関する指導事項の系統

	1　年	2　年	3　年	4　年	5　年	6　年
音読 朗読	○語や文としてのまとまりを考えながら音読すること。	○文章の内容を考えながら音読すること。	○文章の内容が表されるように工夫して音読すること。	○事柄の意味，場面の様子，人物の気持ちの変化などが聞き手にもよく伝わるように音読すること。	○聞き手にも内容が分かるように朗読すること。	○聞き手にも内容がよく味わえるように朗読すること。
発音及び発声に関する事項	○はっきりした発音で話すこと。 ○姿勢，口形などに注意して発声すること。 ○声の大きさに気をつけて話すこと。	○発音に注意してはっきりと読むこと。 ○姿勢，口形などに注意して発声すること。 ○声の大きさや速さに気をつけて話すこと。	○発音のなまりやくせを直すように話すこと。 ○その場の状況に応じて適切な声の大きさや速さを考えて話すこと。	○なまりやくせのない正しい発音で話すこと。 ○目的に応じた適切な音量や速さで話すこと。	○正しい発音で話すこと。 ○ことばの抑揚，強弱などに注意して話すこと。	○正しい発音で話すこと。 ○ことばの抑揚，強弱などに注意して話すこと。

音読学習の教材化をするにあたっての留意点を次に述べてみたい。

(1)　音読の基礎的技能の指導

自然な声，元気のある張りのある声を遊びや生活の中で育てる。発音については，母音と子音とのつながりを理解させ，五十音表の正しい見方を通して日本語の発音の基礎を学習させる。また，舌の動きや呼吸法などをことば遊びの中で訓練していく。口形指導は，鏡を使って口形図と自分の口形を見比べさせる。さらに，自分の耳でどの読み方がよいか確認し，自分の声を耳で常に確かめながらよりよい口形を育てていく。姿勢については，ただ形だけで教えるのではなく，よい発音，発声ができる姿勢を自分で感じとらせていく。また，自分の声を録音し，テープを聞き，発音や読み方のよいところやおかしいところに気付かせていく方法も取り入れたい。

(2)　語や文としての読み方指導

二音節のことばの読みから入り，三音節，四音節と進み，語のまとまりとして読めるまで，くりかえし声に出して読ませる。さらに，声に出して読むだけでなく書く活動も同時に取り入れ，音声と文字とイメージが一体化するように指導する。語としての読みができるようになったら，簡単な一文の読みに進む。短い文で，子どもたちの生活に近いできるだけイメージ化しやすい文を選ぶようにする。入門期の音読は，短い文をゆっくり，はっきり，文字に沿って確実に音声化していくことが大切である。さらに，授業の中では，一人ずつ声を出して読む活動を多く取り入れ，一斉読みだけで終わらせることのないように配慮する。

教科書の中心教材を見てみると，音読教材としてふさわしいお話し文が少なく，特に文の音読に慣れさせたい時期の教材は，ほとんどが説明文になっている。これでは，子どもたちに教科書を「自分の力で読んでみたい」と思わせることはむずかしい。そこで，児童にとって読みの抵抗が少なく楽しく音読できるような教材を考えていきたい。

以上のような留意点を踏まえ，入門期の音読学習の教材化に取り組むことにした。

5　入門期の学習内容と単元構成（教科書単元＋特設単元）

月	時数	学習内容（ことばのれんしゅう）	単　元　名
4	6	○母音を含む語を集める。 ○「あいうえお」の書き文字と筆順	そらのはし（お話）
	2	○声を育てる。　○母音口形 ○あいうえお体操	特設単元 あいうえおであそぼう①②
	8	○清音の平仮名の読み書き ○しりとり	たのしいがっこう（生活）
5	6	○文字重ね遊び　○字形の似た平仮名の区別 ○基本文型「……が……ます。」 ○にごる音を含むことば　○言葉集め（1.2.3.4音節）	ともだち（お話）
	7	○あいうえおのうた　○がぎぐげごのうた ○つまるおん　○のばすおん	おはなしのたび（お話）
	7	○音の聞き分け　○声の録音を聞く ○母音　[illegible]音　○五十音表　○詩の朗読	特設単元 あいうえおであそぼう③～⑨
	8	○基本[illegible]「……は……を……ます。」 ○拗音，拗長音を含むことば・きゃきゅきょのうた	くらべましょう（説明）
6	8	○「は」と「わ」 ○「へ」と「え」　○「を」と「お」	せんせい　あのね（作文）
	8	○基本文型「……は……に……を……ます。」	むしの　はなし（説明文）

Ⅳ　授業実践

第１学年　　国語科学習指導案

日　時　平成３年５月28日（火）３校時
学　級　１年５組　男子19名　女子15名
指導者　木　村　まち子

1　単元名　　「あいうえお」で遊ぼう

2　単元の目標

(1)　口形や姿勢，声の大きさに気をつけて，はっきりした発音で話すこと。

(2)　言葉のリズムに親しみ，語や文としてのまとまりを考えて音読すること。

3　単元の設定理由

(1)　児童について（実態調査より）

発音・発声について（４月25日実施）＜資料５＞

①　声量が乏しい（声を続けて出す……10秒以下32名）

②　口形が小さく，唇の動きがほとんどない。

③　発音が不明瞭な子が多い。

サ行不明瞭11名　　ラ行不明瞭23名　　ラ行・ダ行の混同15名

ザ行不明瞭９名　　キ音不明瞭４名

④　声がガサガサしている子が多い。

⑤　言葉の復唱が出来ない子がいる。（五音節以上になると言えない２名）

○　文字の読み書きについて（５月20日実施）

①　平仮名（清音）は，語のまとまりとしてほとんどの子が読める。

②　平仮名（清音）で四音節程度の言葉は，ほとんどの子が書いているが，考えながら書くので時間がかかる。

③　濁音，半濁音を含む言葉は，一音ずつは読めるが語として読むのはむずかしい子が多い。

④　促音を含む言葉の読み書きができるのは数名程度。（授業でまだ扱っていない）

⑤　拗音を含む言葉の読み書きができるのは半数程度。（授業でまだ扱っていない）

⑥　一文の読みとしては，まだ，一字一字拾い読みをしている段階の子が多い。

【実態調査集計表例】

名前	声量秒	声　質	口形	発音							読み	書き	備考
				カ行	ハ行	ラ行	サ行	鼻音	ザ行	ダ行			
	５秒	かすれ声	○	○	○	△レ	△	○	△ゾ	○	○	○	

(2)　教材について

一年生は語や文の意味を理解するより先に，言葉や音の面白さに興味を持つ。そして，言葉や音の面白さは，自分が声に出して読むことによってさらにはっきりしてくる。このような一年生の特性を踏まえ，言葉の響きやリズムの面白さを味わわせながら，たのしく声に出させて自然のうちに発音・発声の基礎を身につけさせたい。また，みんなと楽しくリズムに乗って読みながら，一字一字の拾い読みを解消していけるようにしたい。このような願いをこめて，子どもたちが喜んで取り組める教材「あいうえおで遊ぼう」を特設することにした。

これは，入門期における音読の基礎指導を一連の単元（９時間）に独立させたものである。教科書では，音読の基礎的指導事項を単元毎に段階を追って配置してある。これらの指導を関連音読とすると，この「あいうえおで遊ぼう」は，特設音読といえる性格のものである。入門期における音読指導は，関連音読だけでは系統的なきめ細かい指導が思うようにできない。そこで指導の柱を二本立てにし，音読の基礎を児童一人一人にしっかり身につけさせたいと考え，本単元を設定した。

４　指導計画（９時間）

	め　あ　て	時	学　習　内　容	指導の手だて
第一次	○正しい発音，発声のための母音口形，姿勢	1	(1)外遊びを通して，大きな声で歌ったり笑ったりする。 (2)友だちの声の特徴に気づく。	じゃんけんあそび かごめかごめ ブーブーブー

第一次	○声の大きさがわかる。	2	(1)あいうえお体操を通して母音の音の感じをつかむ。 (2)声を出す正しい姿勢，呼吸法が分かる。 (3)母音の正しい口形がわかり自分の口形を鏡で確認する。（口形図，鏡）	あいうえお体操 あいうえおの練習
		3 本 時	(1)動物のいろいろな鳴き声を聞き分ける。 (2)声の録音を聞き，自分の声や友だちの声を聞き分ける。 (3)読み方のよいところやおかしいところに気づく。 (4)自分の声を耳で確かめながら，大きな声ではっきり読もうとする態度を育てる。	音あてクイズ 声の録音 読む時の約束 ・口の形 ・大きな声 ・よい姿勢
第二次	○五十音の正しい発音の基礎が分かり，簡単な言葉を語のまとまりとして読むことができる。	4	(1)清音について母音とのつながりがわかる。 (2)五十音表をたてに読んだり横に読んだりする。	ひらがなのお母さんさがし 五十音表
		5	(1)簡単な言葉を，語のまとまりとして読む。 (2)ひらがな（清音）を正しく発音する。	とんだとんだのことばあそび
		6	(1)清音，濁音，半濁音の音の違いがわかる。 (2)濁音，半濁音を含む言葉を正しく発音する。	へんしんゲーム① がぎぐげご表
		7	(1)清音，勘音の音の違いがわかる。 (2)拗音，促音，長音を含む言葉を正しく発音する。	へんしんゲーム② なきごえゲーム きゃきゅきょ表
第三次	○はっきりした発音で楽しく音読する。	8	(1)「つち」の詩を一音一音ゆっくり，はっきり読む。 (2)情景を思い浮かべながら音読する。	「つち」 みよしたつじ
			(1)みんなで「つち」の詩を分担して読む。 (2)グループに分かれて，詩の朗読発表をする。	詩の朗読

5　指導案

題材	声づくり （1／9）	めあて	①　子どもの心からほとばしる笑い声，自然な声を外遊びの中で育てる。 ②　外遊びの中で大きな声を出すことにより，正しい発音発声に必要な声量を育てる。

学習内容・活動	時間	指導の手だて	
		留意点	音読（聴覚）
1　じゃんけん遊びをする。 (1)　げんこつやま (2)　じゃんけんぽん	5分	○教師のまねをして，楽しく手遊びをしたり歌ったりする。	・声を合わせて歌う。
2　「かごめかごめ」の遊びをする。	15分	○４つのグループに分けて，円を作る。 ○最初は，ひとつのグループでやってみせる。 ○全員が鬼になるように配慮する。	・声をあわせて元気に歌う。
3　「ブーブーブー」の遊びをする。 ブーブーブー　たしかにきこえる ぶたのこえ　ブーブーブー 	20分	○ひとつのグループに教師が入ってやってみせる。 ○教師は，４つのグループを順番にまわって児童の反応を見る。 ○なかよく楽しくやっているグループをほめる。 ○大きな声で元気よく歌っている人に前に出てやってもらう。 ○よいところをさがさせる ○なかよくできたかな。 ○元気な声で歌えたかな	・友だちの声を聞き分ける。 ・友だちの元気な声を聞く。
4　反省する。	5分		

題材	あいうえお体操 （2／9）	めあて	① 正しい発音をするための母音口形がわかり，姿勢に気をつけて，みんなに聞こえる声を出すことができる。 ② あいうえおの音の感じを体でつかむ。

学習内容・活動	時間	指導の手だて	
		留意点	音読（聴覚）
1 リズムのまねっこ	5分	○手拍子をよく聞いてまねさせる。（ことばも一緒に）	・リズムを聞く。
2 板書「あいうえお」を読む。	2分	○ア－イ－ウ－エ－オ－ ○ア，イ，ウ，エ，オ，	
3 あいうえお体操をする。 (1) 手をゆっくり上げながら ア―― (2) はをみせて イ―― (3) おなかにボールがあたったよ。いたいよ。 ウ―― (4) とび上がって エ―― (5) おっ，なにかあるぞ オ，オ，オ，	12分	○姿勢の指導 ○呼吸の指導 ○歌は体操を十分覚えた後で文カードを見せて言わせる。（資料1）	・体全部で声を出す。 ・リズムに乗って歌う。
4 口形図と五つの母音とのマッチング	4分	○唇をさわってみる。 ○「う」と「お」はゆさぶりをかける。	
5 自分の口形を鏡で確認する。	6分	○鏡を配る。 ○自分の口形を鏡でしっかり見させる。	
6 正しい音の聞きとりをする。	8分	○どの「あ」がいいか聞かせて選ばせる。	・正しい音を聞き分ける。
7 口形図を見て発音する。	5分	○口形図→教師の口形（声は出さない）	
8 「あいうえおのれんしゅう」を読む。	3分	○鏡を見ながらさせる。	・口形に気をつけて読む。

題材	音あてクイズ （3／9） 本時	めあて	① いろいろな虫や動物の鳴き声，そして友だちの声に関心を持ち，その音の違いを聞き分けられる耳（聴覚）を育てる。 ② 自分の声を耳で確かめながら，大きな声ではっきり読もうとする態度を育てる。

学習内容・活動	時間	指導の手だて	
		留意点	音読（聴覚）
1 「あいうえおのれんしゅう」を声をそろえて読む。	5分	○鏡を机の上に置く。 ○口形を確認させる。	・口形に気をつけて読む。
2 「音あてクイズ1」をする。 ～誰の鳴き声かな～ (1) ひよこ (2) にわとり (3) かえる (4) せみ (5) いぬ (6) ねこ	10分	○記録用紙を配布。 ○2ひきの鳴き声を聞いたあと答えを書かせる。 ○話型を指導してから答えを発表させる。 （ぼくは……だと思います。）	・動物の鳴き声を聞き分ける。
3 「音あてクイズ2」をする。 ～誰の声かな～ 読む時の約束 (1) 口の形に気をつけて読む。 (2) 大きな声で読む。 (3) よい姿勢で読む。	10分	○自分の声だったら○，違ったら×を解答用紙に書かせる。 ○友だちの声も分かる人は，友だちの名前も書かせる。 ○読み方の良かったところをさがさせる。 ○読み方の良い人を見せて，読む時の約束を子どもたちから引き出す。	・自分の声や友だちの声を聞き分ける。 ・読み方のよかった所を聞き分ける。
4 「あいうえおたいそう」の歌を読む。	10分	○一人一人の声の録音をする。 ○約束に気をつけて一斉に読む。 ○約束に気をつけて一人で読む。	・一斉読み。 ・一人読み。
5 声の録音を聞く。	10分	○友だちの読み方のよいところをさがさせる。 ○自分の読み方のおかしいところに気づかせる。	・自分の声の録音を聞く。

題材	ひらがなのお母さん さがし （4／9）	めあて	① 清音について母音とのつながりを理解する。 ② ひらがな（清音）を正しく発音することができる。

学習内容・活動	時間	指導の手だて	
		留意点	音読（聴覚）
1 「ひらがなのお母さんさがし」をする。 (1) か (2) く (3) こ (4) き (5) け	10分	○五人のお母さん（母音）を提示する。 ○文字カードを順番に提示する。 か→く→こ→き→け ○「か」を長く発音し聞かせる。 「最後に何と言っているかな」 ○口形も鏡で確認させる。 ○一斉読み→一人読み	・ひらがなの発音を聞いて母音を聞き分ける。
2 ワークシートで練習する。	15分	○一斉に声を出してお母さんの音を聞き取らせる。 ○何名かの子を指名して言わせる。	・自分で発音しながら，母音を聞き分ける。
3 「ひらがなの子どもたちさがし」をする。	5分	○母音の横にひらがなの子どもたちを並べていく。 ○子どもたちのどこが似ているか聞き取らせる。	・母音と子どもたちの音の類似部分を聞き分ける。
4 五十音表をたてに読んだり，横に読んだりする。	10分	○ゆっくり，はっきり発音する。 ○読む時の約束を確認しながら読ませる。 ○口形を鏡で見ながら読ませる。 ○リズムに乗って楽しく読む工夫をする。	・リズムにのって楽しく読む。
5 「あえあえたいそう」の歌をうたう。 （資料2）	5分	○口形を変えないで，舌を前後に動かす練習。（あえあえ） ○舌の上下運動。（れろれろ）	・舌を速く動かして読む。

題材	声の朗読 （8／9）	めあて	① 「つち」の詩を聞き，耳からのイメージを色や絵に表す。 ② 一音一音はっきり口形に気をつけて音読する。

学習内容・活動	時間	指導の手だて 留意点	音読（聴覚）
1 「つち」の詩を聞き，イメージ化する。	10分	○教師は2回くりかえして読む。 ○「どんな色が見えたかな」 イメージ化した色に近い色紙を取らせる。 ○「何が聞こえたかな」と発問し，いろいろな音や声を言わせてみる。 ○「今度は何が見えたかな」 見えたものを絵に書かせる。 （色紙の上に書く）	・詩を聞き，耳からのイメージを色や絵に表す。
2 「つち」の詩を一音一音ゆっくり，はっきり読む。	15分	○発音が不明瞭になりがちなところを取り立てて指導する。 あり（最初のあ）ひいて（H）ちょう（拗音）よっと（促音）ようだ（長音の読み方）（da）	・一音一音ゆっくりはっきり音読する。
3 情景を想像しながら音読する。	10分	○「どんな色，どんな形」 「どんな気持ち？」 について考えさせる。 ○情景を想像しながら音読させる。（ありを見た経験） 一斉読み→交互読み→分担読み→一人読み	・気持ちを込めて音読する。
4 詩を正しく視写する。	10分	○詩のプリントとワークシートを配る。	

題材	詩の朗読 （9／9）	めあて	① みんなで「つち」の詩を分担して読むことにより，音読の基礎的技能を伸ばす。 ②詩詩の朗読発表を通して，朗読の楽しさを味わう。

学習内容・活動	時間	指導の手だて	
		留意点	音読（聴覚）
1 「つち」の詩をみんなで読む。	10分	○一斉に音読する。 ○男女に分かれて読む。 （立って読む。向きを変えて読む。） ○グループに分かれて読む。 ○読む時の約束に気をつけて読んだか自己評価させる。	・詩の暗唱 ・一斉読み ・分担読み
2 発表会のやり方を説明する。	5分	○一つのグループを前に出して説明する。 （あいさつ，題の読み方） ○4人で分担して読ませる。	
3 グループに分かれて練習する。	10分	○工夫して読んでいるグループをみんなに紹介する。	・読み方のよい所を聞き分ける。
4 詩の朗読発表会をする。 つち みよしたつじ ありが ちょうのはねを ひいていく ああ よっとのようだ	20分	○グループごとに発表する。 ○友だちの発表のよいところを聞き取らせる。 ○ありの様子が目に浮かんでくるような読み方をしていたね。 ○最初の時よりずいぶん上手になったね。 ○一人一人の読み方をそれなりに認めてやる。	・朗読発表 友だちの音読のよいところを聞く。

6　本時の評価

(1)　児童の評価の観点

①　鏡を見て自分の口形や顔の動きを確認することができたか。

②　動物の鳴き声を耳を澄まして聞くことができたか。

③　動物の鳴き声を正しく聞き分けることができたか。

④　友だちの声の録音を耳を澄まして聞くことができたか。

⑤　声の録音を聞いて，自分の声であるかないかが分かったか。

⑥　友だちの声を正しく聞き分けることができたか。

⑦　母音口形に気をつけて読むことができたか。

⑧　みんなに聞こえる大きな声で読むことができたか。

⑨　正しい発音・発声のできる良い姿勢で読むことができたか。

(2)　教師の評価の観点

①　導入のしかたは適切であったか。

②　教材の選定は適切であったか。

③　学習形態は適切であったか。

④　板書は適切であったか。

⑤　ワークシートの内容は適切であったか。

⑥　教師の助言は適切であったか。

⑦　学習のまとめ方は適切であったか。

7　授業記録（本時）

授　業　の　流　れ	参　考
1　前時の学習を想起し，「あいうえおの練習」を読む。	
T　この前学習したことを覚えていますか。 何かな。（口形図を示す）ア→イ→ウ→エ→オ 鏡を見てね。ア，イ，ウ，エ，オ 唇引っ張って，やわらかくします。 C　「あいうえおの練習」る一斉に読む。 (1)　唇に手をあて，ア，イ，ウ，エ，オ (2)　あごに手をあて，ア，イ，ウ，エ，オ (3)　まゆに手をあて，ア，イ，ウ，エ，オ (4)　ほほに手をあて，ア，イ，ウ，エ，オ (5)　おなかに手をあて，ア，イ，ウ，エ，オ (6)　むねに手をあて，ア，イ，ウ，エ，オ	○オとウの口形は似ているので，鏡を見て確認させたが，鏡と口形図を同時に見せるのは無理があった。 ○その都度，動いたかどうか確認させ，口だけでなく体全体で発声させるようにした。 ○⑥のところでは，息をいっぱい吸わせるようにしたら，大きな声が出るようになった。

(7) みんな動かして，ア，イ，ウ，エ，オ

2　「音あてクイズ１」をする。（だれの鳴き声かな）

（テープレコーダーを出す）

T　みんなの大好きな動物の鳴き声が入っています。
　音あてクイズを始めましょう。
　わかった人は，声を出さないで紙に書きます。

（ワークシートを配る）

※　テープ（ひよことにわとり）

C　（静かに聞く）

T　二人いたの？一人なの？
　二つの時は，１番と２番に分けて書いてね。
　もう一回聞きます。

※　テープ２回目

T　わかった人，答えて下さい。

C　私は，にわとりだと思います。

C　ぼくは，すずめだと思います。

C　ぼくは，ひよこだと思います。

C　ぼくは，とりだと思います。

C　わたしは，ひよことにわとりと思います。

T　答えは，ひよことにわとりです。もう一回聞いてみようね

※　テープ３回目

T　次にいきます。

※　テープ（かえるとせみ）

T　わかった人は声を出さないで書こうね。

C　私は，「かえるとせみ」と思います。

C　ぼくは，「かえるとせみ」と思います。

T　答えは，かえるとせみです。

C　やった，やった！

T　もう一回聞いてみようね。
　これはかえるだよ。これはせみだよ。

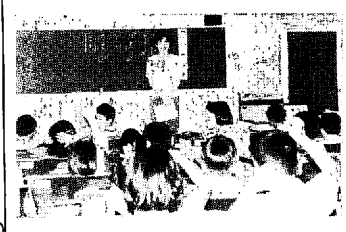
3　「音あてクイズ２」をする。（だれの声かな）

T　今度は誰の声かな。きょうは，みんなの中から抽選で５人の人の声を聞いてもらいます。

○本物のひよこの鳴き声を聞いた経験が乏しいためかむずかしそうにしていたが，にわとりはすぐ分かり喜んで書いていた。ここでは，「あれ，何かな？」と思わせて一生懸命聴かせるのが目的だったので，そのねらいは達成されたと思う。

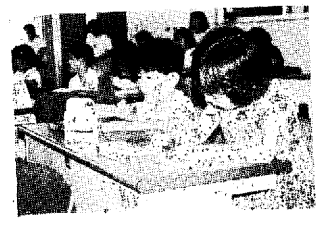
○話型を指導した。

○発表を板書した。



○かえるの今までの概念「ケロケロケロ」とはずいぶん違っていたため，最初は分からないようすだったが，耳を澄まして一生懸命聴くうちに，「ああ，わかった」という声があちこちから上がった。

○せみの鳴き声は毎日聞いているのでよく分かり，一斉に鉛筆が動いていた。



※　テープ（1番）

C　ぼくは，ゆうこさんの声だと思います。

C　私は，ゆうこさんの声だと思います。

T　ざんねん，あきらくんでした。

（4番まで繰り返す）

T　4人ともみんな読み方がよかったね。

たいきくんにもう一度読んでもらいますから，よく聞いてください。よかった所をさがしてね。

C　エーエエーエエエエーえじそんえらい。

C　わたしは，口の動きがよかったと思います。

T　そう，口の形に気をつけていたね。

C　私は，手がよかったと思います。

T　背中もまっすぐでしたね。

C　大きな声で読んでいました。

T　たいきくんはこの3つの約束を守っていたから上手に読めたんだね。

C　（3つの約束を一斉に読む。）

T　みんなもこの3つの約束を守って読めるかな。

C　（一列目から順に）

アーアアーアアアアーあんばん　あまい。

T　一列の人の声を聞いてみようね。

C　（静かに聞く）

T　次の列の人どうぞ。

C　イーイイーイイイイーいいこは　いるか。

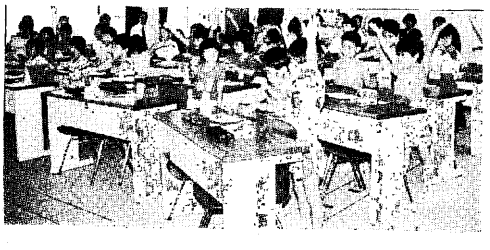
T　聞いてみようね。

C　（静かに聞く）

T　みんな一緒に読んでみよう。

C　（みんなで，あいうえおたいそうの歌をうたう。）

T　3つの約束を守って読むと，上手に読めるようになるんだね。



○一番は，比較的おとなしい子の声だったので，みんな間違ってしまう。本人も自分の声だと気がつかない。

○二番から四番までは，特徴的な声の子どもたちだったので，みんなすぐ分かって大はしゃぎしていた。本人たちも三人はすぐ分かっていたが，一人は友達に言われるまで分からなかったらしい。一年生にとっては自分の声の録音は初めて聞くので難しかったと思う。今後も自分の声を聞く機会を多く持たせたい。

○友達のどこがよかったかを実際に見せながら探させたのはよかった。

○自分の声を聞くのは恥ずかしいのか耳をふさいだり，照れ臭そうにしていた。後で感想を聞くと「うれしかった」という子がほとんどだった。

○一年生にとって自分の声を客観的に聞き取るというのは難しいと思うが，ここでは，自分の声に少しでも関心を持ってくればいいと思う。

○一人読みの時間を，もっと，多く取るべきだった。

8　授業研究会の記録

(1)　授業者の反省

①　子どもの反応や所要時間について，全く予想のつかない授業で不安がいっぱいだった。

②　「音あてクイズ１」では，本物の鳴き声を聞いたことがない子が多く，特に，ひよこはむずかしそうだった。ここでは，子どもが「しっかり自分の耳で聞こう」とする態度が身に付いてくれればいいと思う。

③　今日の授業の主となるねらいは，３番目の活動にあったが，１，２の活動に思った以上の時間がかかり，目標達成に向けて十分な取り組みができなかった。

④　以後の授業（あと６時間）で，きょうの子どもたちの気づきを大事にし，さらに聞くことを大切にしながら音読の力を伸ばしていきたい。

(2)　感想・意見

①　児童は，テープの鳴き声や友だちの声にとても関心を持って，よく聞いていた。

②　もっと多くの子が発表する場があってもよかったのではないか。

③　鏡を見るのか黒板を見るのかはっきりしないところがあった。

④　注意をする言葉がなく，子どもたちを集中させるための方法を工夫していたのはよかった。

⑤　視聴覚室の，いすが一年生の体に合わなくて，足がぶらぶらし，まっすぐ坐りにくかったため姿勢が悪くなっていた。

(3)　指導助言（諸見里　稔指導主事）

＜良い点＞

○　本時の目標は大きく分けて二つあったが，聞かせる内容の指示が明確で聞く活動はよくやっていたと思う。

○　興味・関心を起こさせながら展開していった指導過程はよかった。

○　口形は，よく理解していたのではないか。

○　話型（主語，述語をはっきりさせる）は，低学年のうちから身につけさせる必要があるが，授業の中でしっかり押さえて指導していたのはよかった。

＜改めたい点＞

○　実際に一人一人読む機会をもっと取ってほしかった。

○　口形も鏡だけでなく，お互いペアで向かい合って見させるのも良い方法である。

○　前に出て話させる場合も，全員に向かって口形も見せながら言わせた方が効果的である。

○　「良い姿勢」「大きな声」も低学年においては，体を通して理解させるように工夫してほしい。

Ⅴ　資　料

＜資料１＞

あいうえおたいそうのうた

あ　あんぱん　あまい

い　いいこは　いるか

う　うたれて　うなる

え　えじそん　えらい

お　おかしは　おいしい

＜資料２＞

あえあえたいそう

あえあえ　あえあえ

あえあえ　あ

れれれれれ　ろろろろ

れれれれれ　ろ

あえあえ　あえあえ

あえあえ　あ

れれれれれ　ろろろろ

れれれれれ　ろ

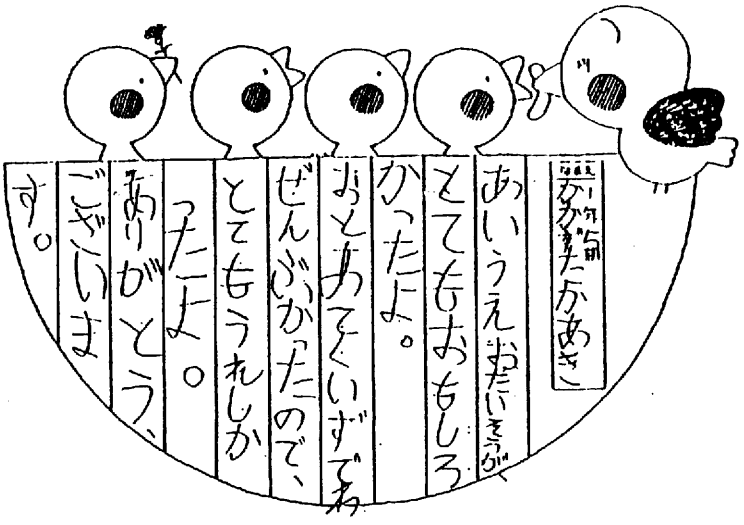
あえあえ　あえあえ

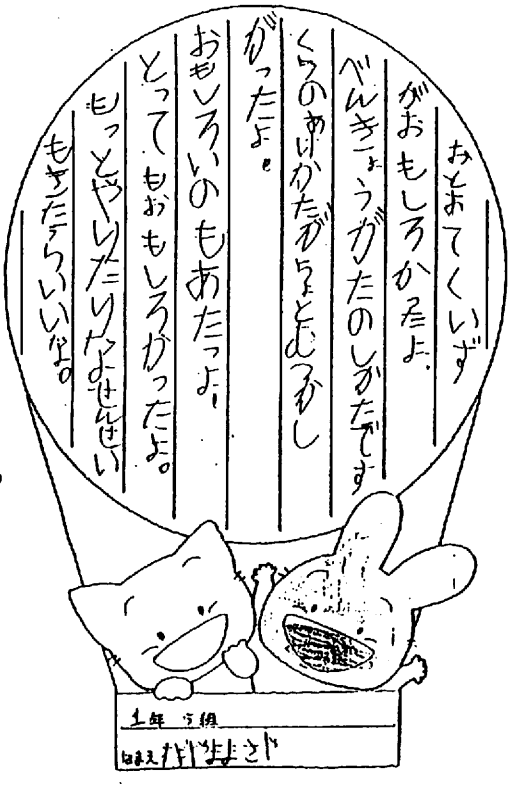
あえあえ　あ

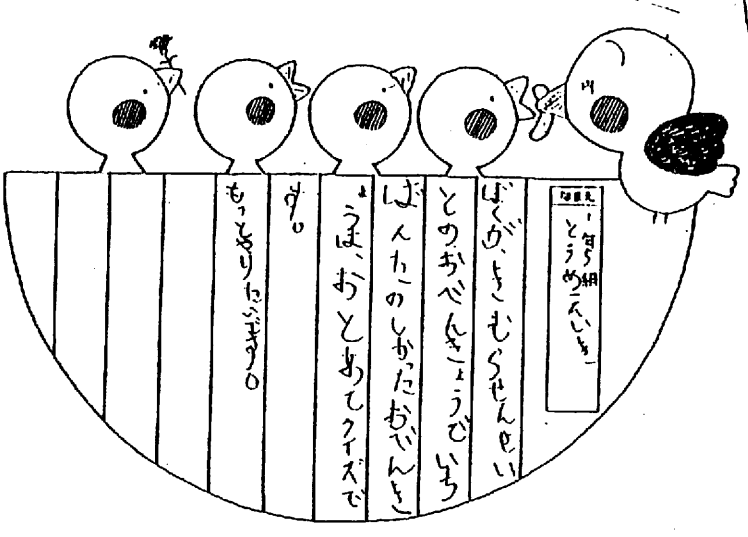
れろれろ　れろれろ

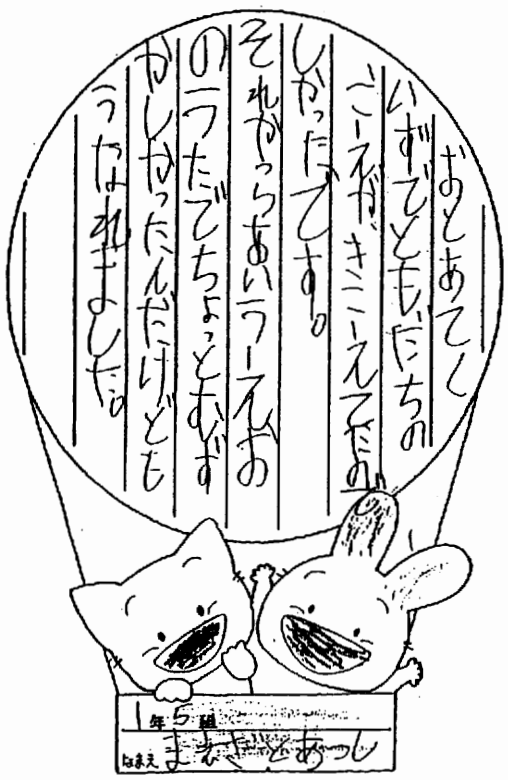
れろれろ　れ

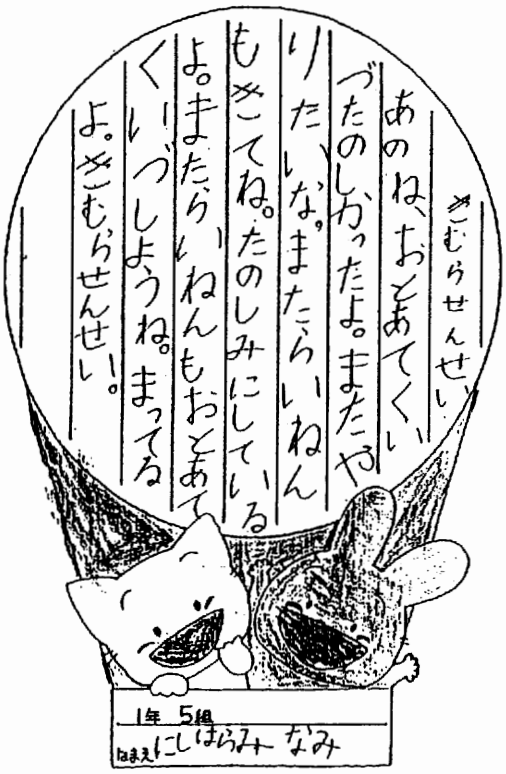
あいうえおたいそうが、たのしかったです。そとでげえむをしたりして、たのしかったです。おとあてくいずも、たのしかったです。なんでもできるようになったです。ありがとう、ございます。
1年 5組
なまえ いけまえみ


1年 5組 なまえ あかまたかあき
あいうえおたいそうが、とてもおもしろかったよ。おとあてくいずでわ、ぜんぶかったので、とてもうれしかったよ。ありがとう、ございます。

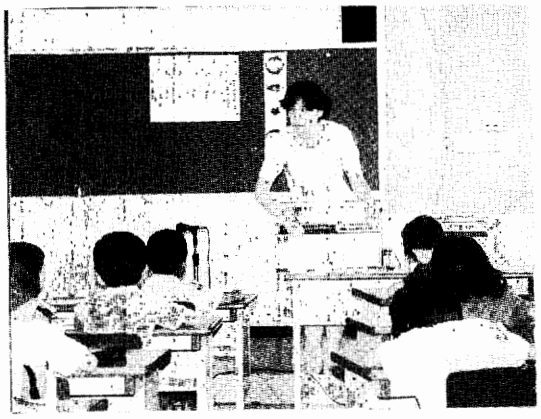

おとあてくいずがおもしろかったよ。べんきょうがたのしかったですくらのあけかたがちょとむずかしかったよ。おもしろいのもあたったよ。とってもおもしろかったよ。もっとやりたりなかったよ。もっとやったらいいな。
1年 5組
なまえ ナガ生まさ


1年5組 なまえ とうめこんいち
ぼくが、きむらせんせいとのおべんきょうでいちばんたのしかったおべんきょうは、おとあてクイズです。もっとやりたいです。





<資料4> 学習の様子



音あてクイズ「何の鳴き声かな」

○ テープに入っている動物の鳴き声に真剣に耳を傾けている。

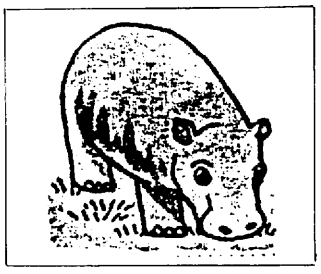
○ 解答用紙に答を書き入れる子どもたち。
「ちょっとむずかしいよ」

音あてクイズの答を発表している

○ 「ハイ，わかりました！」自信を持って手をあげる児童。

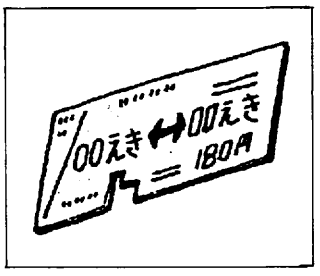
<資料5>　発音の実態調査に使用した絵カード

1



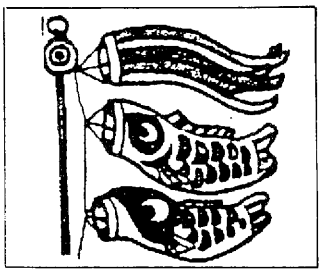
kaba

2



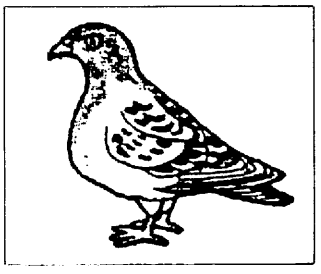
kippu

3



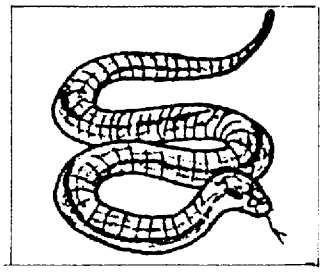
koinobori

4



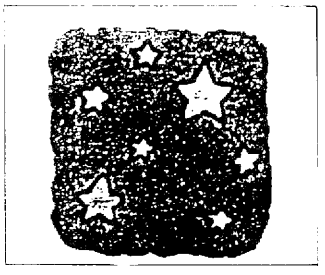
hato

5



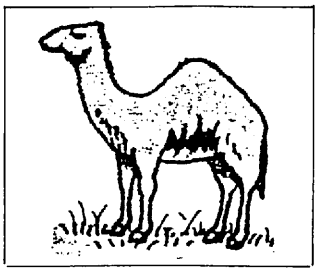
hebi

6



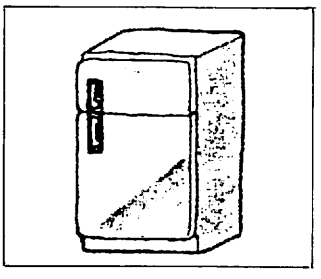
hosi

7



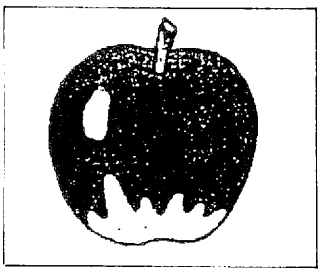
rakuda

8



rêzôko

9

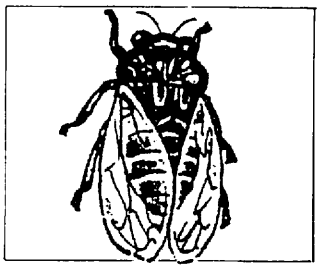


riŋgo

10

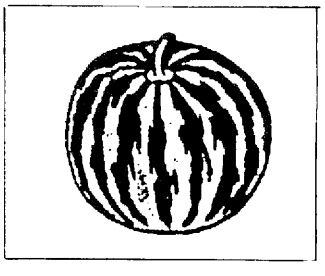
saru

11



semi

12



suika

音　読　個　別　化　表

No.	名　前	口形	声量	姿勢	語や文としての読み						聞き分ける力	備　考
					清音	濁音	長音	促音	拗音	文		
1		○	△	△	○	○	○	△	△	△	△	
2		◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
3		○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
4		○	△	○	◎	◎	○	○	○	○	○	

Ⅵ　研究のまとめと今後の課題

1　研究の成果

(1)　耳を使った活動に喜んで取り組み，自分の声や友達の声に関心を持つようになった。

(2)　ことばのリズムや音の面白さを体で感じながら楽しく音読することができた。

2　今後の課題

(1)　音や声の聞き分けは楽しく興味をもってできたが，ことばや文になると語彙が乏しいために語の感覚や意識をもった聞き分けは，まだまだむずかしい。今後，さらに語としてのイメージをもった聞き分けができるように，指導の工夫をしていきたい。

(2)　簡単な単語や短い文は，拾い読みでなく語のまとまりを考えて読むことができたが，少し長い文の読みになると，まだまだ文字への抵抗が大きく，楽しんで読んでいる子は少ない。子どもたちの読みの実態に合った教材文の選定について配慮していきたい。

(3)　音読の基礎は，国語だけでなくあらゆる生活を通して指導するものであるということを学級づくりの基本に置いて，音読が育つ環境設定を考えていきたい。

(4)　発音に特に問題がある子に対する個別指導の場の設定について考慮していきたい。

おわりに

今まではただ何となく指導していた音読に，今回，じっくり取り組むことができた。研究していくうちに，教師としての姿勢をいろいろと反省させられることが多く，今までの自分を振り返るよい機会となった。

研究期間中，諸見里　稔指導主事をはじめ，たくさんの先生方から多面にわたるご指導とご助言をいただきました。心から感謝申し上げます。

＜参考文献＞

	国語教育　6月号	明治図書	1991年
鈴木清隆著	ことば遊び，五十の授業	太郎次郎社	1990年
伊藤経子著	音読の授業　続音読の授業	国土社	1990年
岩崎　保編	音読・朗読・暗唱を活用する指導	明治図書	1990年
	小学校の国語科教育　29，30号	明治図書	1989年
飛田多喜雄　瀬川栄志編	小学校国語科指導細案1年	明治図書	1987年
高杉自子　亀井和子編	話しことば・書きことば	チャイルド本社	1986年
八戸音読研究の会編	授業を変える音読のすすめ	明治図書	1986年
堀田勝俊著	ウェーファ・メソッド	ウェーファ・メソッド研究所	1977年